

2026年度を迎えて

上田 克彦

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長

2026年度は不安定な世界情勢からのスタートとなりました。日本にも少しずつ影響が出ていると思います。会員の皆さまにおかれましては、安全にお過ごしいただけますことを祈っております。さて、私は会長就任以来、3期6年にわたり「対話と協調」をキーワードに掲げ、本会の運営にまい進してまいりました。この間、会員の皆さまから賜りました温かいご支援とご協力に、心より深く感謝申し上げます。



これまで、特に注力してきたのが関係団体との「協調」による職能の確立です。診療放射線技師の役割拡大を象徴する「告示研修」の当初は、日本医学放射線学会（JRS）の協力の下、講師派遣を頂き実施体制を築くことができました。また放射線診療のさらなる発展を目指し、JRS、日本放射線科専門医会・医会（JCR）、日本放射線技術学会（JSRT）、そして本会（JART）で「放射線診療4団体連絡協議会」を設立致しました。2023年に東京で開催された日本医学会総会では、この4団体に日本ラジオロジー協会（JRC）を加えた合同ブースを設置し、放射線診療について市民への普及啓発に成功しました。これを礎に、2027年の大阪開催に向けても同様の連携を力強く進めております。

国政や行政の場においても着実な成果を結実させています。3号巻頭言でも述べておりますが、環境省への出向を皮切りに、本会の紹介による官公庁への配置が実現しました。また国立大学、国立病院機構などの協力で厚生労働省、環境省、原子力規制庁には多数の診療放射線技師が配置されました。文部科学省との連携としては、正しい放射線知識の普及を目的とした「出前授業認定講師」制度が創設され、教育現場における診療放射線技師の役割も拡大しています。養成機関との連携強化の一環として「学業優秀賞」を新設し、各養成機関から推薦を受けた方を卒業時に表彰し、次代を担う人材の育成を支援しています。

本会の「対話」の姿勢は、各地区の若手会員とのWeb懇談会を全都道府県と実施し、現在は2巡目に入っております。毎回、忌憚のないご意見を頂いており、これらの意見も参考に2023年にはJART Vision 2040で長中短期目標を制定し、短期目標の多くは実現できました。またチーム医療推進協議会の代表として最近の3年間、中央社会保険医療協議会における専門委員として診療報酬改定に関わってきましたが、処遇改善要望や改定率向上が実現できました。本会の畦元将吾顧問の衆議院議員復帰により、これまで以上に医療政策に関与し、診療放射線業務を通じて国民の健康と福祉に貢献できる体制が強化されました。一部の不祥事が業界全体の不信を招かぬよう、2026年度も高い倫理観を持ち、真摯に業務に取り組むことが大切です。本会はこれからも、診療放射線技師の社会的地位向上と、質の高い医療の提供に全力を尽くす所存です。皆さまのより一層のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。